

1 学校教育目標

県教育委員会関係各課の「平成 30 年度 (2018 年度) 教育指導の重点や取組の方向」及び本校の校訓「創造」「礼節」「勤労」のもと、励まし合い・認め合い・個性を高め合う教育をとおして、誠実で自立した産業人の育成を目指す。

2 本年度の重点目標

- (1) 学力の向上と教科指導の充実
アクティブラーニングの推進、習熟度別授業の効果的な実践
教科指導方法の工夫・改善
- (2) 生徒指導の充実
健全な心身の育成、段階的指導の有効活用、いじめの発生しない環境づくり
生徒支援の充実
- (3) キャリア教育の充実
望ましい勤労観・職業観の育成、将来への目的意識の確立、個に応じた進路指導
- (4) 地域連携
地域に開かれた学校づくり、コミュニティ・スクールの機能の確立
ボランティア活動の推進、小中学校との交流、積極的な広報活動
菊池支援学校高等部山鹿分教室との交流
- (5) 人権教育、道徳教育、主権者教育の充実
すべての教育活動において実践

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	育友会活動の充実	文書回収率	回収率、平均85%	安心安全メール活用で保護者参加率の増加	B	全てにおいて90%以上の回収率であった。担任の先生方が提出物の指導に力を入れておられる結果と考えられる。
		安心安全メール加入率	90%以上加入		A	夫婦で登録されることもあり、生徒数に対する加入率は100%を越える。緊急時の連絡に役立つことから今後も全家庭に登録を促していく。
	入学者確保に向けた取組の充実	中学校への訪問回数	担当中学校への3回以上の訪問	山鹿・菊池・玉名・北区の中学校へ担当者が訪問し、積極的に情報発信	B	学校説明会や学校案内の持参等、平均3回程度の訪問を実現できた。場合によっては、入学式への参加や運動会への参加を行った中学校もある。さらに3年生の進路状況報告等、在学生の活躍情報の発信も心掛けた。
		商工フェスタの充実	来場者数の1200人（昨年度1200人）	店舗販売、体験コーナーを強化し、広報活動を積極的に行う。	B	天候も良かったため、1200名以上の方に来場していただいた。参加児童のアンケート結果も良好。
		体験入学の参加者数	参加者数170人以上（昨年度154人）	内容を充実させ、各中学校へ積極的な参加を呼び掛ける。	B	参加者数は150人程度で目標数を超えることができなかった。アンケート調査では、ほぼ全員が「進路を考える上で参考になった」と回答した。また、体験学習はわかりやすかったと回答した中学生は77%であった。今後は、中学生だけではなく、保護者や教師を対象とした説明会を検討していきたい。
学力向上	基礎学力の向上	基礎学力診断テストの実施	12月実施の基礎学力診断テストにおいて、2学年の成績下位層の理解度D・Eの割合を20%以下	チャレンジタイムによる学び直しの充実 習熟度別指導の充実	B	基礎学力確認テストにおいて、成績下位層D・Eランクの生徒は、前年度の1年生が24%、2年生が24%であった。これに対し本年度は1年生が25%、2年生が18%となった。つまり、現2年生は成績階層が24%から18%に改善された。これは、チャレンジタイムによる学び直しや習熟度別学習指導等の継続した取組の成果であると捉える。さらに基礎学力向上を目指していかなければならない。
	授業改善	アクティブラーニングの実践	学校全体で、能動型学習を取り入れた研究授業を2回以上実施	アクティブラーニングで生徒の主体的な学習態度を育む	B	今年度は、テーマの一つに「授業のユニバーサルデザイン化」を加え授業改善を推進した。そのうえで10月と11月に研究授業を実施した。研修の取組を、いかに根付かせるかが今後の課題と捉える。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
キャリア教育（進路指導）	目的意識の確立	志望の状況	1年生：7割の生徒が就職か進学かの進路希望を決定 2年生：8割が進路目標設定	進路希望のこまめな実施	B	1年生は、進学・就職の希望はほぼ固まっているが、漠然としている生徒もいる。2年生は、就職・進学の希望ははっきりしているが、具体的な企業名、学校名を挙げるができる生徒は、全体の6割ほどである。
		生徒の進路意識高揚	学校紹介就職：100% 進学決定：100%	ライフプランニング講座 企業と生徒の交流会 進学ガイダンス	B	社会の景気が上向いていることが影響して、学校紹介就職は、残り1名となっている。就職内定者では、県内企業の割合が高まった。進学希望については、全員が学校を決めることができた。全体として、順調だった。
生徒指導	基本的な生活習慣確立と規範意識の醸成	教頭指導数の減少	0人（昨年度2人）	段階的指導を用いた徹底した指導	B	担任や学年主任との連携をしっかりと図り、教頭指導をしなくてはならない生徒を出さずにすんだ。指導票の内訳が課題未提出や提出期限を守れない生徒が大半を占めているため、段階的指導を撤廃して教科担当者での指導に切り替えていきたい。
	交通安全教育の徹底	交通違反・事故件数	0件（昨年度交通違反1件・事故件数5件）	街頭補導や交通安全教育の充実	B	特にバイク通学生の安全教育に力を入れてきたが事故7件、違反3件があった。新規バイク通学希望生徒の免許取得に対する準備不足や初動の悪さから免許を取得することができない生徒が非常に目立ってきている現状がある。
	情報モラル教育の推進	ネットでの誹謗中傷事案の減少	0件（昨年度7件）	集会やLHRでの啓発活動の実施	B	SNSの不適切な利用の情報は把握できたものに関しては、その都度個人的指導を行い集会時に全体でも指摘し注意喚起しているが減る様子はない。モラルの向上を図るための手段が課題である。
	生徒会活動の充実	ボランティア活動に参加した生徒の数	年間70人以上（昨年度70人）	生徒会を中心とした取組を部活動単位等呼び掛ける	B	様々な学校行事を通じて地域社会に活気ある学校をアピールすることができた。学校行事と重なったものもあり、生徒会が呼びかけた参加者は総勢46名であった。他にも鋤簾の製作を通じて全国の被災地支援に頑張った生徒も多数いた。
	主権者教育の充実	意識の高揚、選挙違反者数	全ての生徒が選挙に行くという意識を持つ。 選挙運動違反者0件	外部関係機関と連携した講演会等の啓発活動	A	今年度は、山鹿市選挙管理委員会に講演をお願いした。投票の意義を、私たちの生活と関連させながらわかりやすくお話していただいた。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
人権教育	人権教育講演会の充実	人権教育講演会のアンケート実施（対生徒）	4段階評価において評価満足度3.5以上を目指す。	生徒目線での講師や内容の選定	B	今年度は、水俣病関連情報発信事業で5人の講師の方に講演をしていただき、様々な視点から水俣病を見つめ直す機会となった。評価は2.7だった。
	命を大切にす る心を育む指 導	講演会の実施 関連教科におい て命の大切さを 考えさせる	講演会を3回以 上実施 年間を通して命 について考えさ せる授業を展開	関係部署が立案 し講演会を実施 する。 関連教科で指導 内容を洗い出 す。	A	各部署で、性教育講演会、薬物乱用防止講演会、情報モラル講演会、命を守る防災講演会を実施した。また、家庭科での赤ちゃん交流の実施など年間を通して命の大切さを考えることができた。
特別 支援 教育	困り感のある 生徒への組織 的支援体制の 醸成及び強化	特別支援教育の 推進	講演会及び年3 回の校内委員会 を実施	SSW、SCや外部 講師による職員 研修実施	B	夏休みに職員研修を実施。人権教育、教務部と連携して「学びのUD化」について研修し、授業実践につながった。校内委員会は2回実施し、生徒情報共有の機会となった。次年度は研修内容の充実を図りたい。
		困り感のある生 徒の発見、職員 との連携と SSW、SCへのつ なぎ	学期毎に校内員 会の実施 毎週1回SSWと の会議 月1回SCとの会 議の実施	ケース会議や校 内委員会の実施 及び支援室会議 の実施	B	毎週1回SSWと支援室職員との会議を実施し、気になる生徒について情報共有を行った。学年主任の先生を通して、SSW、SCと担任の先生とのつながりができ、生徒の支援につながる体制が整いつつある。担任とSCとの面談も100%実施することができた。
		支援策の情報共 有と職員への周 知	生徒情報収集 支援計画の作成	中学校訪問、二 者面談等により 生徒の状況を把 握し、当該生徒 の支援計画を作 成	C	中学校訪問、新入生面談により継続支援が必要な生徒・保護者とSSW、職員が面談を実施した。支援計画の作成は担任に依頼しているが、今年度は9割しか作成ができなかった。コーディネーターからのアプローチが不足していたこともあり、次年度以降の課題である。
いじ めの 防止 等	いじめのない 学校づくり	いじめの早期発 見、早期対応の 取組	次回アンケート で、「いじめが 継続している」 0件を目指す。	いじめの防止の ため、年間5回 アンケートを実 施	B	2学期末段階でいじめが継続していると回答した生徒は3人であった。いじめがあるとアンケート等で答えた生徒に対しては、個別に対応して現状の確認を行い、保護者への連絡してその都度解決を図るようにしている。
				「いじめの早期 発見・早期対応 マニュアル」に 沿って対応	B	幸い重大事案は発生していないが、いじめを受けたという生徒が11名おり、先生方との情報共有を頻繁に行っている。いざというときのためのシミュレーションを3学期職員研修などに取り入れる予定である。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	地域連携の充実	「かざぐるま」の活動	地域のイベントを中心に出店活動（地域イベントへ10件出店）	地元イベントとの連携の中で地域の人達との交流を盛んにする。	A	地域からの出店依頼に生徒・職員とも積極的に参加してきた。今年度新規に案内されたイベントもあり、生徒が地域貢献する場が増え、地元との信頼関係も深まったと考える。
		技術ボランティア実施回数	内容の充実を図り、年間10件以上実施（昨年度10件）	中学校説明会や学校広報誌等で取組をPRする。	B	目標値を達成することはできたと思う。大がかりな製作等や外部からの対応に対しても十分に貢献やPRできたと思う。広報でも紹介できた。
	コミュニティ・スクールの機能の確立	学校運営協議会の活動	防災教育の充実、避難所指定に係る山鹿市との協定の締結	学校運営協議会委員との連携を強め、学校運営協議会を年3回実施する。	B	山鹿市内の県立高校と合同で学校運営協議会を3回実施（予定を含む）した。地域代表、行政、消防、警察、近隣小中学校、保護者代表と防災に関する協議することをおして、地域との繋がりを深める契機となった。山鹿市との締結に向けて検討を行ったが、締結までには至らなかった。
地域と連携した取組の実施		合同防災訓練を近隣の小中高等学校や地域住民と協力して実施する。	学校運営協議会等をおして共通理解を図る。	C	1年生を地元で開催された「防災のつどい」に参加させる予定であったが、インフルエンザの流行のため不参加となった。 合同防災訓練の実施に向けて、検討は行ったが実施には至らなかった。しかし、近隣の区長様に防災避難訓練の様子を見ていただき御意見をいただくことで、次年度へ向けての布石とすることができた。	

4 学校関係者評価

(1) 評価された点

- ・ボランティアで使う道具を開発し、実際に被災地に送る取り組みをされていることは、素晴らしいと思う。特許を取ることもできるのではないかと。特徴的な取り組みをさらにPRすること。
- ・就職試験の1回目での合格率が高くなっていることは評価できる。生徒が目標を明確に持っていれば、目標を目指して頑張ることができると思う。

(2) 課題として指摘された点

- ・生徒募集について、私学は熱心に中学校を訪問してこられるが、公立は決まったおとりにしか訪問されない。私学に比べ、公立は生徒や保護者に情報が伝わっていないことは事実である。
- ・鹿本商工高校の良さを一部の人しか知らないのは残念である。学習の成果を中学生に向けて発表するのもよいのではないかと。そのことにより保護者も理解が深まると思う。

5 総合評価

(1) 本年度の学校教育目標

学校評価アンケートから、本校で充実した学校生活を送っていると答えた生徒が82%、子どもが充実した学校生活を送っていると感じている保護者が92%、鹿本商工高校に入学してよかったという生徒が75%、入学させてよかったという保護者93%等の結果が出ている。本校における教育活動が生徒や保護者から一定の評価を得ており、「誠実で自立した産業人の育成」に繋がっていると考える。課題も残されているが、全体としては概ね本年度の学校教育目標を達成することができた。

(2) 本年度の重点目標

- ア 鹿本商工版アクティブラーニングを取り入れた授業づくりを意識し、研究授業を実施した。本年度は「授業のユニバーサルデザイン」の視点も取り入れた。学校評価アンケートの結果では、わかる授業・興味関心を持てる授業が行われていると考える職員は98%であるが、生徒は81%であった。今後も、弛まない取組が必要である。
- イ 生徒指導の充実を図るために、段階的指導や登校指導等に取り組み、これらについては生徒や保護者からもしっかり行われているとの評価であった。いじめの防止及び早期発見を目的にアンケート調査を定期的に行った。特別な支援の必要な生徒もいて、担任が中心となり、生徒支援担当と連携しながら指導に当たった。進路変更をした生徒は7名で、年度末へ向けて昨年度に近い数になることも予想される。
- ウ 学校紹介で就職を希望した生徒はほぼ全員内定し、昨年に引き続き地元銀行へ就職する生徒も出た。好調な求人状況を受けて、1回目の合格率は92%であった。進学では、専門学校が多く、国公立大学や県立技術短期大学校等の合格は出なかった。
- エ 地域との連携を図るために、地域イベントへの出店や各種ボランティアに取り組み、一定の成果を上げることができた。菊池支援学校高等部山鹿分教室との連携も、体育大会、商工フェスタ、交流授業等を例年通りに行うことができた。

(3) 自己評価総括表

- ア 生徒数に対する安心安全メールの加入率は、100%を超えている。未加入の家庭もある一方で、夫婦で登録されている家庭もある。行事等の定期的な連絡に加えて、緊急の連絡も可能な環境が整いつつある。今後も加入への協力をお願いしていく。
- イ 入学者確保に向けて、中学校への訪問、商工フェスタの充実、体験入学等に取り組んだ。ほぼ目標どおりの取り組みを行えたが、前期(特色)選抜の志願者数を見ると、前年度より15名少ない志願状況で、昨年度の22名減ほどではなかったが、厳しい状況であった。
- ウ 基礎学力の向上を目指し、学び直しの時間の設定や習熟度別授業に取り組んだ。基礎学力確認テストの結果によると、2学年の成績下位層の割合が24%から18%に減少する等の成果が現れた。基礎学力の身につけていない生徒入学してくる実状があり、丁寧な指導が不可欠である。
- エ 指導票による段階的指導を行ってきたが、課題の未提出等で指導を受ける生徒が大半を占める状況であり、指導票の在り方について検討する時期に来ていると考えられる。
- オ 昨年度より防災型コミュニティ・スクールの指定を受け、山鹿市内の高校と連携して学校運営協議会を実施した。地域住民代表、地元小中学校、行政、消防、警察との繋がりを持つことができたが、合同避難訓練の実施や山鹿市との協定の締結には至らなかった。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 生徒確保に向けた取組

前期（特色）選抜の志願者数が2年続けて前年度を下回る結果となった。これまでも情報の発信や特色ある取組を行ってきたが、生徒確保に繋がっていない状況がある。これまでの取組の見直しや工夫改善を図り、学校の魅力を中学校や地域に伝えていく必要がある。

(2) コミュニティ・スクールの推進

本年度は2年目となったが、具体的な事柄にまでは踏み込めなかった。山鹿市との協定の締結や合同避難訓練の実施へ向けて、具体的な協議に入る必要がある。他の地域の状況を確認しながら、できるところから進めていく。

(3) 授業改善

授業の改善を目指して取り組んでいるが、学校評価のアンケート結果では生徒と職員に認識の差がある。授業評価アンケート等の結果も活用しながら、授業改善への取組を学校全体で進める必要がある。研究授業の充実や研修会への積極的な参加を促していく。

(4) 特別な配慮を要する生徒への対応

これまでの指導方法では対応しきれない生徒がいる実状がある。中学校の時に特別支援学級に在籍していた生徒も入学してきている。情報を共有し、担任や教科担当が連携し、より良い指導の在り方を確認していく体制を整える。支援計画の作成はできているので、その有効活用を図る取組を進める。

(5) 技術ボランティア

これまで長年取り組んできているが、ボランティアの依頼に対して、職員が対応する場面が多くなっている。地域連携の充実を目指す取組であるが、校内のボランティアが半数を占めている。生徒が学んだ知識や技術を地域に生かす還元する場をとらえ、高齢者施設や子育て支援施設、小学校等に焦点を絞ったり、「できること一覧」を作成し、施設等に配付したりすることを検討する。

平成30年度学校評価アンケート結果考察

1 はじめに

平成30年度学校評価アンケートは、生徒、保護者及び職員に対して実施した。回答数は、生徒341人、保護者313人（330世帯）、職員48人で、回収率平均97.5%であった。延べ45項目についての質問事項の内容は、学校全般について6項目、教務関係事項8項目、進路関係事項5項目、生徒指導関係事項11項目、総務関係事項5項目、保健体育関係事項6項目、専門教育関係事項4項目となっている。各対象別の質問項目は、生徒対象で37項目、保護者対象で33項目及び意見記述欄、職員対象で40項目を設定した。評価については4段階評価を用いている。評価4を良くあてはまる、評価3がややあてはまる、評価2があまりあてはまらない、評価1が全くあてはまらない、として評価平均が4に近いほど評価が高い設定とした。

2 結果分析

(1) 生徒評価について

最高値を示した項目は評価平均 3.57 のあいさつや服装などの身だしなみ指導に関する項目であった。評価の高い項目は、実習時の安全教育に関する項目 3.50、施設の安全管理に関する項目 3.49、実習室の整理整頓及び環境整備に関する項目 3.46。芸術鑑賞に関する項目 3.46 であった。

評価が最も低い項目は、昨年度に引き続き、家庭学習の指導に関する項目で評価平均 3.01（昨年度 2.88）であった。前年より 0.13 の上昇で改善されているがそれでも低い評価であった。本校に入学しての満足度の評価が 3.02（昨年度 3.02）で2番目に低かった。生徒が入学して良かった思える手立てが必要である。授業のわかりやすさに関する項目は評価平均 3.06（昨年度 2.98）で、0.08 上昇したものの低い評価であった。授業改善等に取り組んでいるが課題が残った。

過去6年間の平均より伸びた項目は、図書館の利用環境に関する項目で 0.24 上昇し 3.41 であった。全体として過去6年間の平均より（3.20）より高い評価平均（3.30）となった。

(2) 保護者評価について

最高評価を得たのは、あいさつや服装などの身だしなみ指導についてで、評価平均 3.58（昨年度 3.54）であった。評価が高かった項目は、美化活動に関する項目 3.51（昨年度 3.48）、電話対応 3.48（昨年度 3.40）、資格取得に対する指導 3.47（昨年度 3.33）、専門的な知識能力の育成 3.46（昨年度 3.31）であった。

評価が最も低い項目は、生徒評価と同じく家庭学習に対する指導で評価平均は 2.95（昨年度 2.83）であった。中退・不登校に対する指導に関する項目も 3.00（昨年度 3.08）で低い評価であった。

(3) 職員評価について

最高評価を得たのは、生徒及び保護者への広報に関する評価、評価平均 3.60（昨年度 3.70）であった。評価が高かった項目は、実習時の安全教育 3.56（昨年度 3.47）、芸術鑑賞 3.53（昨年度 3.44）、あいさつや服装などの身だしなみ指導 3.51（昨年度 3.62）、図書館の利用環境 3.49（昨年度 3.37）であった。

評価が最も低い項目は、生徒・保護者評価と同じく家庭学習に対する指導で評価平均は 2.54（昨年度 2.62）であった。また、校務改革の項目が 2.70（昨年度 2.82）で、昨年同様低い評価であった。いずれの項目も前年度より更に低くなっており、課題が残った。

(4) 過年度比較について

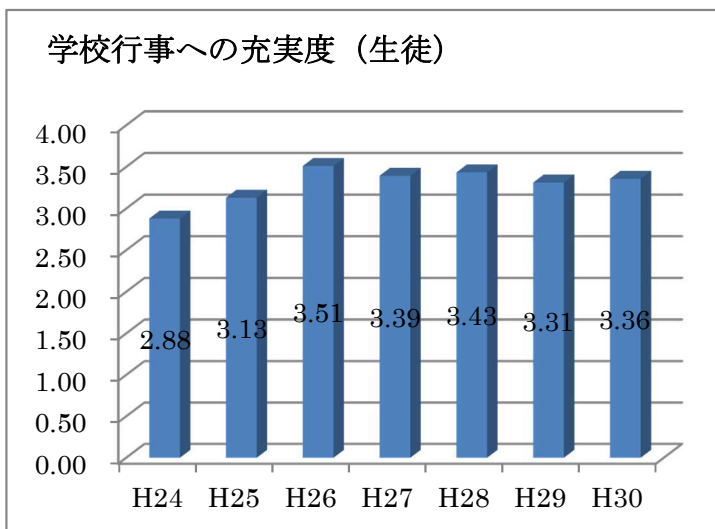
過年度比較については、過去6年間の評価平均と本年度の評価平均の差を標準偏差（生徒0.14、保護者0.14、職員0.22）から、0.2以上と以下で比較検討した。【標準偏差の値で偏差値の10を表わす】

生徒評価については、37項目中35項目が上昇し、2項目が低下した。0.20以上の上昇は、図書館の利用環境0.22だけであった。保護者評価については、33項目全ての項目で上昇という結果を得た。特に資格取得の指導については0.20の上昇であった。職員評価では、40項目中22項目（昨年度16）が上昇したが、18項目（昨年度24）で低下し、昨年度よりは低下した項目は少なかったが、全体として低下が目立った。

以下についてはいくつかの特徴的なものを上げて分析する。

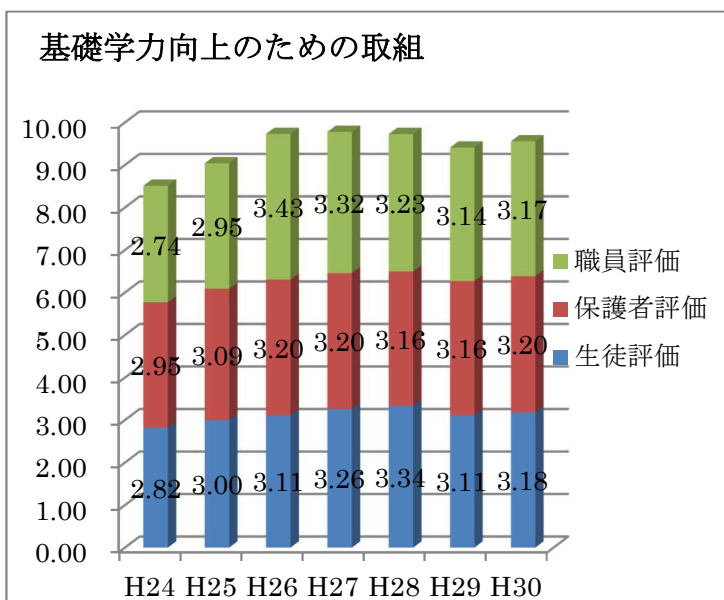
(4) - 1

学校全般質問項目の中で、生徒対象に行った「学校行事である商工フェスタや体育祭は楽しく充実している」に回答した生徒は、回答者の評価平均が3.36。平成26年～28年の数値には及ばなかったものの、昨年度より上昇し高い評価を得ている。魅力ある学校行事の創造に励みになる数値である。



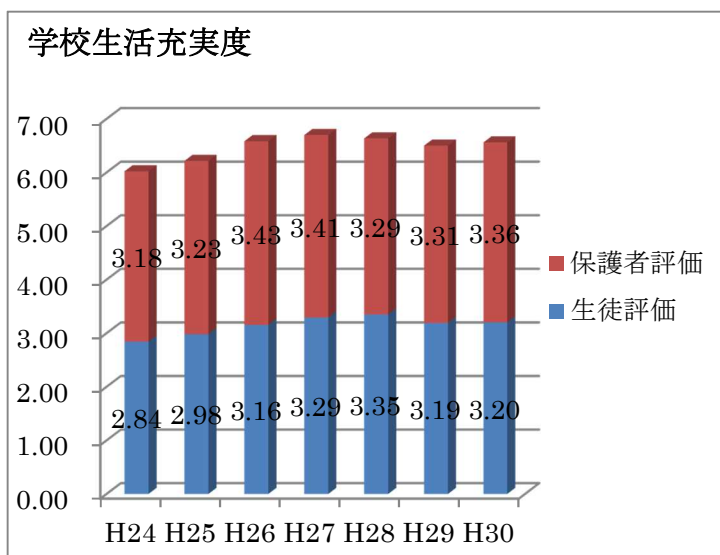
(4) - 2

本校では授業改革と同時に、基礎学力の向上にも取り組んでいる。グラフのとおり、総合的に評価は高い水準であり、職員、保護者及び生徒の評価全てがわずかながら上昇している。生徒が実感できる取り組みの充実を更に図っていきたい。



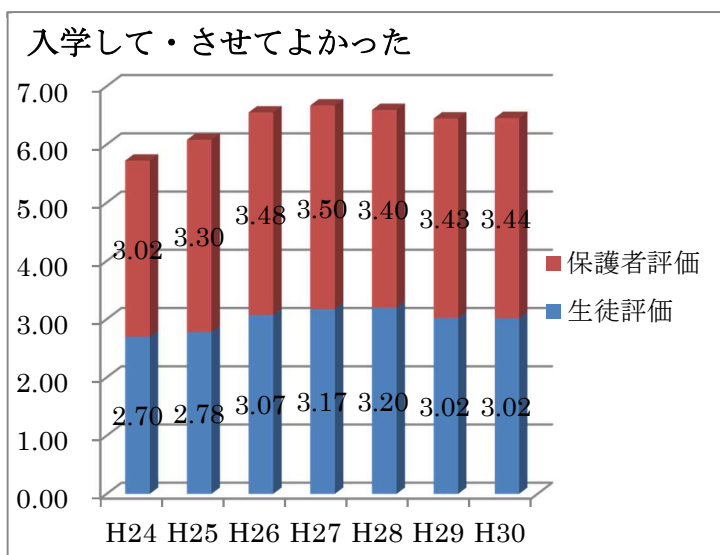
(4) - 3

生徒・保護者を対象にした質問項目「本校で充実した生活を送っている」については、保護者、生徒ともにわずかに上昇した。保護者に比べると生徒の評価低い状況である。全体としては高い評価を維持しているが、生徒が学校生活を積極的に送るように、今後も努力する必要がある。



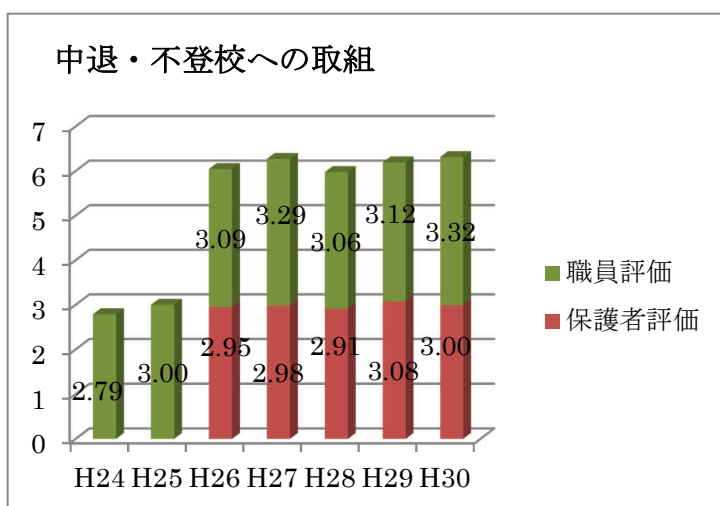
(4) - 4

生徒・保護者を対象に質問した項目で、着実に評価平均が上がってきっていたが、一昨年わずかに低下した。本年度は保護者、生徒ともほぼ前年度と同程度の評価であった。生徒の評価が上昇するための方策が求められる。保護者の評価は高い水準であり、さらに連携を深めながら、指導に当たりたい。



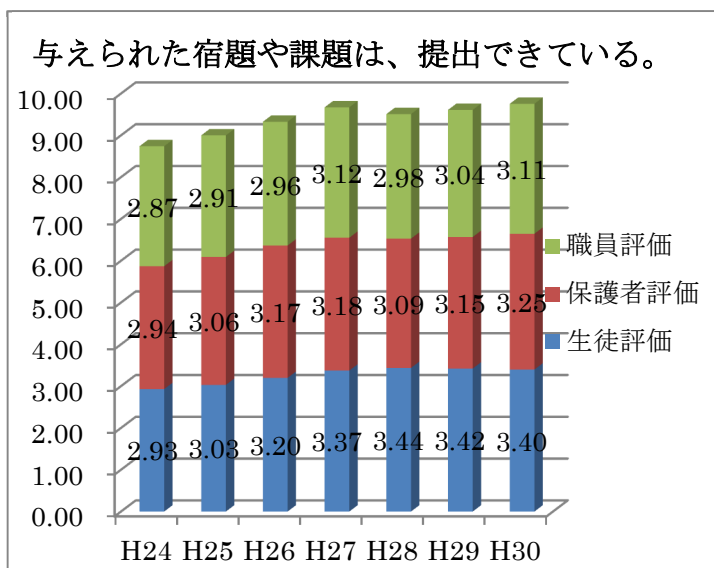
(4) - 5

昨年度まで毎年2ケタの数の生徒が進路変更している。昨年度は10名であった。本年度は11月末現在いで7名（昨年度3名）である。今後増えることがないように注意深く見守っていきたい。外部専門家（SSWやSC）の活用は、職員に対して広がっている。職員の評価は年々上昇している。職員に比べると保護者の評価は高くないので、取組を周知して引く必要がある。



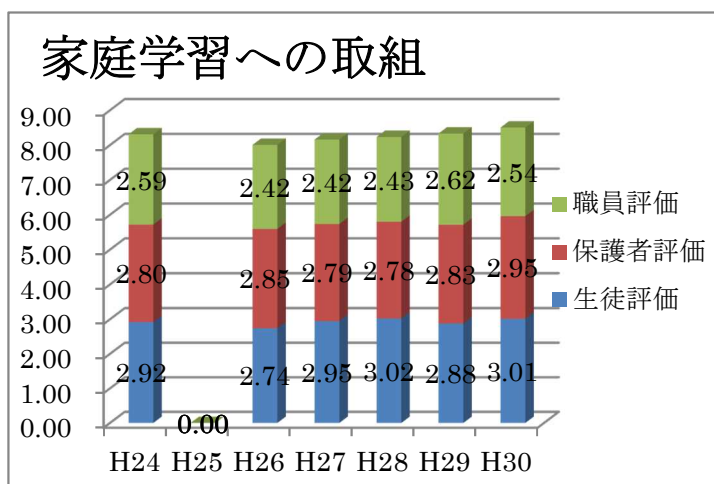
(4) - 6

学習課題に対する生徒の感覚は上昇傾向にある数値である。職員と保護者は前年度より上昇しているが、生徒はわずかに低下した。生徒と職員・保護者の認識に差がある項目である。宿題や課題が提出できない生徒もいるので、生徒の実態を考慮しながらの指導を進めていく必要がある。



(4) - 7

例年、評価項目の中でも低い評価で推移している項目である。本年度も評価平均が最も低い評価項目であった。本年度は、職員の評価は低下したが、保護者・生徒の認識は上がっている。前項目同様、生徒の現状を把握したうえでの対応が求められる項目である。



3 保護者意見欄から

- いじめがあったから。対応がおそい。
- 校則が厳しく改善すべき。
- アルバイトの許可がおりない。
- 学校内でどんな資格の勉強をしているのか分からない。
- 部活動の見学に行くが、顧問の教師と会ったことすらない。安全面で心配である。
- 体育祭前など、たくさんの方が来られる時はトイレの清掃をしっかりとしてほしい。
- 月の行事がメールで送信されていない月もありました。どんなに遅くなっても送信してほしいです。よろしくお願いします。
- 資格を取る事ができている。
- 子どもが楽しく(?)登校している。
- これからもよろしくお願いします。
- 何事にも消極的だった子供が何事にも意欲的に取り組む姿を見て良かった(入学させて)と思っております。

※謙虚に受け止め課題としたい。

4 結果考察

(1) 全項目での評価平均

生徒は、平成24年度以降はじめて降下したが、本年度は上昇した。全体的に昨年度より高め評価であった。

保護者は、昨年度から上昇に転じ、過去6年間では最高の評価となった。更に、連携の強化や情報発信のあり方の見直しなどに取り組み向上を図りたい。

職員は昨年度と大きな変化はなかった。現状維持に満足せず更なる取組が必要である。

(全項目評価平均の推移)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
生徒	2.96	3.14	3.17	3.30	3.36	3.26	3.30
保護者	3.07	3.18	3.26	3.24	3.22	3.24	3.29
職員	3.10	3.22	3.28	3.33	3.30	3.23	3.24

(2) 学校生活全般の満足度

生徒は年々評価が上昇していたが、過去2年間は降下した。本年度はわずかながら昨年度より上昇した。保護者は前年度より評価が上がっている。生徒の満足度が上がれば、保護者の満足度も上がることに繋がる。生徒に充実した学校生活を送らせ、保護者にも理解してもらえらる指導を展開することが求められる。

(3) ホームページやメールによる広報

職員の評価が昨年度より低いが、3者とも良い評価である。ホームページの頻繁な更新やメールによる積極的な情報提供が、良い状況に繋がっていると考える。今後も積極的な情報発信に努め開かれた学校を目指していきたい。

(4) 生徒指導

挨拶、服装、身だしなみに関する項目は3者とも高い評価であった。日頃からの指導が浸透していると考えられる。繰り返し指導を受ける生徒もいるが、全体としては良い状況である。この状況を維持することで、落ち着いた学校生活に繋げることができる。現状に満足せず、地道な指導を続けていきたい。

(5) 進路指導

生徒の評価と比較して、保護者の評価は低い傾向にある。進路情報をしっかりと保護者にも伝えていくことが大切であると考えられる。3年間を見通した進路指導の在り方の構築を進めたい。

(6) 学習指導

宿題や課題の提出に関する項目は、生徒と職員の評価の開きが大きい。指示するだけでは提出ができない生徒がいて、職員が対応に迫られる場面がある。生徒の意識の低さもあるが、支援を要する生徒がいる現実もある。

家庭学習に関する項目は3者とも低い評価である。家庭学習の習慣が身に付いていないこともあるが、生徒の実態からすると自分では勉強できない生徒もいる。

地道に取り組むしか方法はない状況ではあるが、工夫をしたり、特別支援の視点からの対応を考えたりすることが求められる。

(7) 育友会の書類

生徒は、書類提出に対して高い評価であったが、保護者・職員の評価はそれより低い。生徒が催促をされながら提出できている状況があると考えられる。持ち帰って保護者に見せ、返事を学校へ提出することを体験させることで、責任感や些細なことでもきちんとやり遂げる態度を学ばせたい。

(8) 資格検定試験対策、専門的な知識技能の指導、安全教育

高い評価を受けている項目である。専門高校としてしっかりと指導すべき項目である。これまでの指導のノウハウを踏まえて、実態に合わせた指導を行うことが必要である。安全に関する項目は生徒、職員ともに高い評価であり、良い傾向であると考えている。

(9) 校務改善

平成27年度から職員に対して加えた項目で、昨年度よりさらに低い結果となった。学校改革支援事業が平成27年度で終わり、改革が進んでいない状況があることも否めない。研究指定を受けていたときの取組を踏まえ、改革を進める必要がある。

番号	質問項目	対象	生徒			保護者			職員			増減		
			年度	av24-29	H30	差	av24-29	H30	差	av24-29	H30	差	生徒	保護者
1	学校新聞やホームページ、一斉メールをとおり、生徒、保護者に対して適切な広報ができています。	生保職	3.12	3.28	0.16	3.37	3.42	0.04	3.62	3.60	-0.03	↗	→	→
2	学校行事である商工フェスタやスポーツ祭は楽しく充実している。	生	3.28	3.36	0.08	/	/	/	/	/	/	→	/	/
3	生徒徴収金に対する会計の明瞭化は適切にできています	保	/	/	/	3.39	3.45	0.06	/	/	/	/	→	/
4	本校の校内研修は、資質向上に役立っている。	職	/	/	/	/	/	/	3.45	3.32	-0.13	/	/	↓
5	わかる授業、興味・関心を持てるような授業が行われている。	生職	3.10	3.06	-0.04	/	/	/	3.14	3.09	-0.05	→	/	↘
6	本校は基礎学力向上のため、十分な学習指導ができています。	生保職	3.10	3.18	0.08	3.13	3.20	0.08	3.13	3.17	0.04	→	→	→
7	公開授業や研究授業により教科指導の工夫改善を行い、分かる授業を行うことができています。	保職	/	/	0.00	3.16	3.20	0.04	3.24	3.19	-0.05	/	→	↘
8	与えられた宿題や課題は、きちんと学習し提出できています。	生保職	3.23	3.40	0.17	3.10	3.25	0.15	2.98	3.11	0.13	↗	↗	↗
9	考査前の学習指導は適切にできています。	生保職	3.23	3.30	0.07	3.11	3.24	0.13	3.22	3.20	-0.02	→	↗	→
10	家庭学習の指導は適切にできています。	生保職	2.90	3.01	0.11	2.81	2.95	0.14	2.50	2.54	0.05	↗	↗	→
11	学年ごとに生徒の進路に応じた指導（キャリア教育）ができています。	生保職	3.13	3.22	0.09	3.14	3.27	0.13	3.14	3.02	-0.12	→	↗	↓
12	進路ニュース等の情報提供は、適切にできています。	生保職	3.16	3.28	0.12	3.08	3.15	0.08	3.09	3.00	-0.09	↗	→	↘
13	自らの進路を考える環境があり、望ましい職業観や勤労観を学ぶことができています。	生保職	3.16	3.28	0.13	3.11	3.21	0.10	3.12	2.96	-0.17	↗	↗	↓
14	社会の一員としての意識（公平、公正、勤労、奉仕、公共心等）をはぐくむ指導は十分できています。	生保職	3.16	3.32	0.16	3.15	3.25	0.10	3.18	3.13	-0.05	↗	↗	↘
15	就職指導(学習)・進学対策への取組は適切にできています。	生保職	3.24	3.37	0.13	3.19	3.27	0.07	3.22	2.98	-0.24	↗	→	↓

番号	質問項目	対象	生徒			保護者			職員			増減		
			年度	av24-29	H30	差	av24-29	H30	差	av24-29	H30	差	生徒	保護者
16	基本的な生活習慣や規範意識を高く導く指導は十分できている。	生保職	3.20	3.32	0.11	3.20	3.27	0.07	3.34	3.36	0.02	↗	→	→
17	挨拶や服装など身だしなみの指導は適切にできている。	生保職	3.41	3.57	0.16	3.44	3.58	0.14	3.52	3.51	0.00	↗	↗	→
18	地域や校内で美化活動に積極的に取り組み、校内はきれいに整備できている。	生保職	3.13	3.27	0.13	3.40	3.51	0.11	3.29	3.36	0.07	↗	↗	→
19	命の大切さや人間関係づくりを高く導く指導は十分できている。	生保職	3.25	3.36	0.12	3.24	3.29	0.06	3.20	3.30	0.09	↗	→	→
20	いじめなどへの対応は適切にできている。	生保職	3.21	3.37	0.16	3.14	3.19	0.05	3.34	3.43	0.09	↗	→	→
21	日頃から、周囲の人に対して、人権尊重を意識した言動に心がけている。	職	/	/	/	/	/	/	3.39	3.36	-0.03	/	/	→
22	本校の人権教育は適切であり、人権について考える内容である。	生保職	3.25	3.33	0.08	3.16	3.20	0.04	3.35	3.30	-0.06	→	→	↘
23	関わる生徒に対し本校で充実した生活を送れるよう指導を尽くしている。	職	/	/	/	/	/	/	3.33	3.38	0.06	/	/	→
24	中退者・不登校の減少のための手立てを組織的に取組むことができている。	保職	/	/	/	2.98	3.00	0.01	3.06	3.32	0.26	/	→	↑
25	本校で充実した生活を送っている。	生保	3.14	3.20	0.07	3.31	3.36	0.05	/	/	/	→	→	/
26	学校版ISOの取組(節電、節水、整理整頓)は十分できている。	生職	3.06	3.19	0.14	/	/	/	3.12	3.02	-0.10	↗	/	↓
27	ボランティア活動の情報提供や取組は十分にできている。	生保職	3.09	3.16	0.07	3.14	3.17	0.03	3.20	3.15	-0.05	→	→	→
28	育友会関係文書は確実に保護者に渡し、担任に提出することができている。	生保職	3.29	3.40	0.11	3.23	3.29	0.06	3.09	3.19	0.10	↗	→	↗
29	広報紙「風青」及びPTA新聞「雲生るる」は生徒の活動を理解する内容になっている。	生保職	3.14	3.17	0.03	3.19	3.27	0.08	3.32	3.32	0.00	→	→	→
30	図書館は利用しやすい環境になっている。	生保職	3.17	3.41	0.24	3.07	3.19	0.12	3.37	3.49	0.12	↑	↗	↗

番号	質問項目	対象	生徒			保護者			職員			増減		
			年度	av24-29	H30	差	av24-29	H30	差	av24-29	H30	差	生徒	保護者
31	図書館だよりで紹介された本は読書の参考となる内容になっている。	生 職	3.04	3.24	0.19	/	/	/	3.23	3.26	0.02	↗	/	→
32	芸術鑑賞は心豊かになる内容となっている。	生 職	3.33	3.46	0.13	/	/	/	3.44	3.53	0.09	↗	/	→
33	自らの健康（心身の健康や体力の向上）管理ができる指導ができています。	生保職	3.24	3.29	0.06	3.15	3.22	0.07	2.99	3.11	0.11	→	→	↗
34	安全面・健康面に十分配慮した指導ができています。	生保職	3.32	3.34	0.02	3.24	3.30	0.06	3.33	3.36	0.03	→	→	→
35	交通安全教育（自転車や原付、委員会活動）の指導は適切に行われている。	生保職	3.38	3.43	0.04	3.30	3.35	0.05	3.45	3.47	0.02	→	→	→
36	施設の安全管理は適切にできています。	生保職	3.40	3.49	0.08	3.28	3.33	0.05	3.30	3.38	0.08	→	→	→
37	丁寧で的確な電話の対応ができています。	保職	/	/	/	3.35	3.48	0.12	3.37	3.32	-0.05	/	↗	↘
38	部活動をしたいと思っている。指導は適切に行われている。	生保職	2.94	3.05	0.12	3.14	3.21	0.08	3.09	3.13	0.04	↗	→	→
39	本校に入学して・させて良かったと思っている。	生保	2.99	3.02	0.03	3.35	3.44	0.08	/	/	/	→	→	/
40	チャレンジタイムの活用で学習や読書への意識を高めることができています。	生	3.12	3.23	0.11	/	/	/	/	/	/	↗	/	/
41	資格取得に対する指導は充分できています。	生保職	3.35	3.45	0.10	3.27	3.47	0.20	3.34	3.30	-0.04	↗	↑	→
42	専門的な知識・能力の育成に向けた指導が適切にできています。	生保職	3.31	3.42	0.11	3.27	3.46	0.19	3.31	3.33	0.01	↗	↗	→
43	実習時の安全作業の指導は適切にできています。	生職	3.49	3.50	0.01	/	/	/	3.55	3.56	0.01	→	/	→
44	実習室はきちんと整理整頓され、安全で学習にふさわしい環境が整っている。	生職	3.53	3.46	-0.07	/	/	/	3.45	3.38	-0.06	↘	/	↘
45	校務改善で生徒と向き合う時間が以前より増加した。	職	/	/	/	/	/	/	2.92	2.70	-0.21	/	/	↓
平均値			3.20	3.30	0.09	3.20	3.29	0.09	3.24	3.24	0.00			
標準偏差			0.14	0.14		0.13	0.14		0.20	0.22				